



令和元年度
地歌舞伎観劇会
中津川市蛭川蛭子座

令和元年 10 月 20 日(日)に、中津川市蛭川にある「蛭子座(えびすざ)」で行われた、蛭川歌舞伎保存会主催の「蛭川歌舞伎」を観劇した。参加者は、大垣、岐阜、美濃市からバスで参加された方が 16 名、現地集合者が 3 名の計 19 名であった。バスは、富加関インターから東海環状道、土岐からは中央道を走り、恵那インターで高速道を降りて、県道 72 号線を北上し、途中木曾川に架かる東雲大橋から

は福沢桃介がつくった大井ダムや、博石館を横に見ながら、蛭子座に 10 時頃に到着した。

蛭子座は、中津川市に残る三つの芝居小屋の一つで、中津川市有形民俗文化財に指定されている。公民館も兼ねており、蛭川公民館ともいう。毎年 10 月第三日曜日に、歌舞伎保存会の定期公演が行われている。

明治 34 (1901) 年に建造され、昭和 24 (1949) 年に現在地に移転されているが、資材は建造当時のものを多く使用したようである。平成 21 (2009) 年に、名古屋市の御園座を参考にして大改修工事が行われた。改修後も歌舞伎小屋の様式である回り舞台、花道、升席、格天井などはそのまま残している。概況は、木造二階(一部三階)建て。収容人数は 560 名。資材はできる限り再利用され、耐震補強とバリアフリー化の他に、空調設備が整えられており、最新の設備を誇りながら地歌舞伎の雰囲気味わえる作りとなっている。

参加者は、イス席や棧敷席に思い思いに陣取って、早くも弁当をほおぼり腹ごしらえする人もチラホラ。11 時いよいよ開演、最初の演目は小学三年生による「青砥稿花紅彩画 蛭子座勢揃い」いわゆる白波五人男である。決まり文句のセリフを言い換えて自己紹介する内容で、それぞれの個性があふれ、地元の人から名前を呼ぶかけ声が盛んにかかっていた。

二番目は、保存会による「富士三杵孝子誉 由比ヶ浜の場」。曾我物で、兄弟が幼い頃に由比ヶ浜で処刑されそうになるのを救われるという内容である。なんと言っても幼い二人がかわいらしく、地歌舞伎には最適の出し物である。

三番目は、中学生による「青砥稿花紅彩画 稲瀬川勢揃いの場」である。先ほどの小学生のときと違って、こちらは台本のセリフ通りに演じられた。弁天小僧の名セリフ「知らざあ言って聞かせやしょう」があることから地歌舞伎ではよく演じられるようである。

このあと、四番目の、「伽羅先代萩 床下の場」。五番目の「お目見え だんまり」まで見ることはできたが、時間の関係で残念ながらバスでの参加者はここで失礼し帰途についた。

